

宇宙電波懇談会事務局（名古屋）発行

◎ 「野辺山宇宙電波観測所の体制と運営」シンポジウム報告

大型宇宙電波望遠鏡の共同利用体制に関する上記の宇電懇シンポジウムが、野辺山、愛岳寮において1980年12月18、19、20日の三日間にわたって行われた。Ⅰ．45m・干渉計の近況と性能（18日）、Ⅱ．試験観測の体制（18日）、Ⅲ．共同利用としての野辺山観測所（19日）、Ⅳ．運営組織（20日）、および体制についての討論（19日夜）のセッションがもたれ、約80名の参加者によって活発な議論が行われた。くわしくはニュース52号、プログラムおよび本シンポジウム集録（近刊）を参照。

共同利用施設としてのあり方について、理想像、一般論、現実の問題点、既存の共同利用研究所および施設の現状と推移、またそれらから何を学ぶかなどについて秀逸な講演がなされ、観測所の運営、諸設備の運用形態などについて活発な討論が行われた。

観測所スタッフからは特に建設時の人手の不足の問題が強調され、全国の研究者がどのように協力してゆくべきか、技術者、天文学者をどのように確保し、育ててゆくべきかなどについてその方策の検討がせまられた。

全国的な視野に立った人事、研究計画、若手の教育と養成の重要性が強調された。共同利用、宇電懇設立の理念にかんがみて、過去2年間の観測所人事のあり方に対して全国、東京天文台内外の研究者から強い疑問と批判が表明された。

宇宙電波天文学研究者の総意が確実に反映されるような共同利用組織の編成と運用が急務であることが確認され、いくつかの具体的な提案がされた。その実行については、宇電懇の体制の再検討とあわせて、今後の宇電懇運営委員会等

で検討されることになった。

◎ 大型宇宙電波望遠鏡観測装置中央データ処理・制御用

大型計算機についてのアンケート

上記大型計算機の具体的機種選定作業を開始する時期となりました。1980年12月野辺山にて開催された宇電懇シンポジウムでも、共同利用としての観点から大型計算機の利用形態についての話がありましたが、時間の制約のために十分議論をつくすことができませんでした。そこでアンケートを出して、ハードウェア、ソフトウェアに関する要望を聞き、機種選定のための参考資料としたいと思います。作業とりまとめの都合のため、解答は1981年1月末までをお願いします。

① ハードウェアについての要望

② ソフトウェアについての要望

③ 運用形態についての要望

④ その他

アンケート提出先：〒181 東京都三鷹市大沢、東京天文台

石 黒 正 人 宛

データ処理・制御用計算システム構成図

